

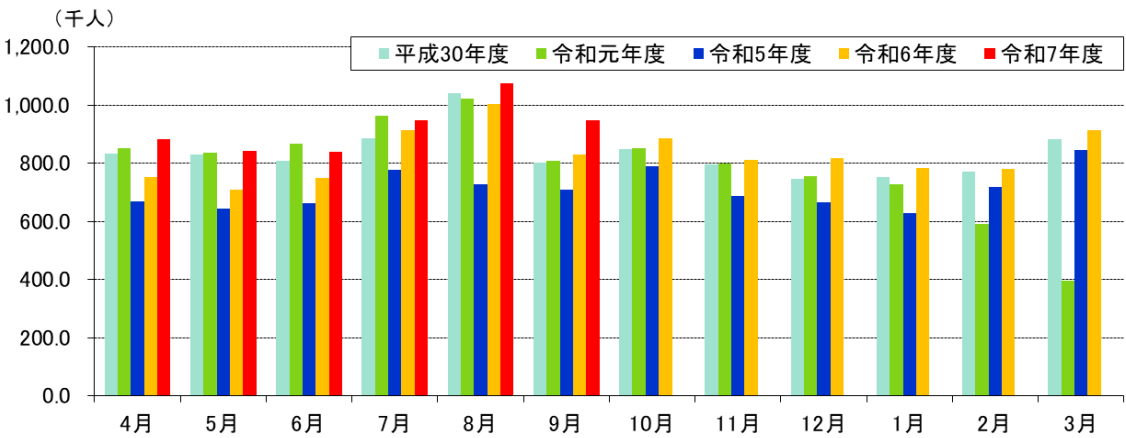
令和7年度上半期 沖縄県入域観光客統計概況（確定版）

文化観光スポーツ部 観光政策課
令和7年12月確定値発表

令和7年度上半期 553万5,200人
対前年度(R6)比 + 57万4,400人 + 11.6%
同期比では過去最高

入域観光客数（国内＋外国）

■ 月別入域観光客数の推移（平成30年度、令和元年度、令和5～7年度）



■ 令和7年度上半期入域観光客の状況（令和6年度・令和元年度上半期との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和7年度	882,600	842,600	838,900	947,600	1,074,900	948,600	5,535,200
令和6年度	752,300	710,400	748,000	915,400	1,003,800	830,900	4,960,800
増減数	130,300	132,200	90,900	32,200	71,100	117,700	574,400
増減率	17.3%	18.6%	12.2%	3.5%	7.1%	14.2%	11.6%
令和元年度	851,400	834,900	868,200	963,600	1,021,200	809,300	5,348,600
増減数	31,200	7,700	-29,300	-16,000	53,700	139,300	186,600
増減率	3.7%	0.9%	-3.4%	-1.7%	5.3%	17.2%	3.5%

■ 令和7年度上半期の概況（総括）

令和7年度上半期の入域観光客数は、553万5,200人と、前年度同期比11.6%増（57万4,400人増）となった。これまで過去最高であった令和元年度上半期と比較すると3.5%増（18万6,600人増）となり好調に推移している。

国内観光客数は、航空路線の搭乗率が好調に推移したこと等から、過去最高を記録した。外国人観光客数は、国際航空路線やクルーズ船の再開・新規就航等により前年度同期を上回る水準で推移した。

国内観光客についての動向

■令和7年度上半期国内観光客の状況（令和6年度・令和元年度上半期との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和7年度	620,900	601,000	599,700	704,200	783,500	685,700	3,995,000
令和6年度	593,400	561,500	577,600	692,300	768,800	634,600	3,828,200
増減数	27,500	39,500	22,100	11,900	14,700	51,100	166,800
増減率	4.6%	7.0%	3.8%	1.7%	1.9%	8.1%	4.4%
令和元年度	601,100	566,500	569,800	660,800	738,300	590,600	3,727,100
増減数	19,800	34,500	29,900	43,400	45,200	95,100	267,900
増減率	3.3%	6.1%	5.2%	6.6%	6.1%	16.1%	7.2%

■国内観光客の概況

令和7年度上半期において、旅行需要を見込んだ航空会社の増便・臨時便・季節運航等や搭乗率が好調に推移したことから、対前年度同期をいずれも上回った。上半期累計では対前年同期比で4.4%増（16万6,800人増）となった。

また、令和元年度に対しても同期比で増加しており、過去最高を記録した。

下半期も、修学旅行の入込みやチャーター便の運航が多数予定されていることから、引き続き好調に推移すると見込まれる。

外国人観光客についての動向

■令和7年度上半期外国人観光客の状況（令和6年度・令和元年度上半期との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和7年度	261,700	241,600	239,200	243,400	291,400	262,900	1,540,200
令和6年度	158,900	148,900	170,400	223,100	235,000	196,300	1,132,600
増減数	102,800	92,700	68,800	20,300	56,400	66,600	407,600
増減率	64.7%	62.3%	40.4%	9.1%	24.0%	33.9%	36.0%
令和元年度	250,300	268,400	298,400	302,800	282,900	218,700	1,621,500
増減数	11,400	-26,800	-59,200	-59,400	8,500	44,200	-81,300
増減率	4.6%	-10.0%	-19.8%	-19.6%	3.0%	20.2%	-5.0%

■外国人観光客の概況

令和7年度上半期は、航空路線の再開・新規就航、クルーズ船寄港回数の増加等により、前年度同期比で36.0%増（40万7,600人増）となった。

また、令和元年度上半期と比較すると、航空路線の復便やクルーズ船寄港回数の増加等に伴い、95.0%の水準に達している。

下半期は、那覇ー清州路線の新規就航、大型クルーズ船（台湾発着）の多数寄港予定等により堅調に推移すると見込まれるが、一部航空路線の欠航・減便やクルーズ船の寄港中止による影響も注視していく必要がある。